

枚方市日本語・多文化共生教室「よみかき」事業について（報告）

1. 概要

枚方市では、日本語の読み書きや話すことに支障があるため、日常生活に困難を有する人に対し、日本語学習の場を提供することを目的として、市内6か所の生涯学習市民センターにおいて、「枚方市日本語・多文化共生教室『よみかき』」を開催しています。（開催日及び時間については下記【表1】、各教室別登録者数については次頁【表2】参照）

平成13（2001）年より教室の運営方法が変わり、それまでの講師2名固定制から、教室ごとに数名の指導員を配置（その中から各教室2名のコーディネーターを選出）し、学習者の日本語に対する様々なニーズに応じています。

また本市では、行政がこの「枚方市日本語・多文化共生教室『よみかき』」事業に、責任を持って取り組むという観点から、指導員については、本市が主催する「指導員養成講座」を受講した人に依頼するという形式を採用しています。このことにより、学習者がいつもの教室で、安心して学習することができる、言わば“居場所”となるような教室運営を目指しています。

【表1】「枚方市日本語・多文化共生教室『よみかき』」開催表

教室名	住所	開設年度	開催日 開催時間
「よみかき」くずは	楠葉並木2-29-5	昭和57(1982)年	木・土 10:00～12:00
「よみかき」カブラザ	岡東町12-3-508	昭和58(1983)年	木・土 19:00～21:00
「よみかき」さだ	北中振3-27-10	昭和61(1986)年	火・金 10:00～12:00
「よみかき」まきの	宇山町4-5	昭和63(1988)年	火・木・金 10:00～12:00
「よみかき」つだ	津田北町2-25-3	平成2(1990)年	水・金 10:00～12:00
「よみかき」すがわら	長尾元町1-35-1	平成9(1997)年	火 10:00～12:00 金 19:00～21:00

【表2】各教室別登録者数（出身国・地域別）

平成28年度分

教室名	くずは	カンブサ	さだ	まきの	つだ	すがわら	合計
実施回数	87回	87回	86回	131回	86回	87回	564回
在籍者数	20人	40人	14人	44人	26人	38人	182人
中国	7人	10人	5人	24人	6人	8人	60人
ベトナム	1人	10人	1人	5人	11人	14人	42人
アメリカ	1人	3人	1人	3人	2人		10人
タイ	2人	3人		2人	1人	1人	9人
インドネシア		1人	3人		1人	3人	8人
フィリピン		4人	1人	1人	1人		7人
マレーシア	2人	1人		1人	1人	2人	7人
韓国	1人	1人			3人	1人	6人
ネパール		3人		3人			6人
カンボジア						5人	5人
台湾	1人		1人	1人			3人
シンガポール	1人					1人	2人
フランス						2人	2人
ペルー				1人		1人	2人
ポーランド		2人					2人
アルゼンチン	1人						1人
イギリス	1人						1人
イラク	1人						1人
カナダ	1人						1人
スペイン		1人					1人
バングラデシュ				1人			1人
モンゴル				1人			1人
日本		1人	2人	1人			4人
延参加者数	317人	396人	147人	785人	617人	369人	2,631人

2. 平成 29 年度の事業

平成 29 年度については、以下の事業を企画・実施いたしました。

(1) 識字・日本語パネル展 ～ともにまなぶ識字・日本語教室の今～

参考資料 1

日時：平成 30 年 1 月 13 日（土）～1 月 18 日（木） 6 日間

会場：枚方市立中央図書館 1 階ロビー

内容：写真パネル 24 枚の展示・枚方市の「よみかき」の紹介・社会教育課の主催事業の紹介 等
・このパネル展は、識字・日本語教室の存在を広く知っていただき、学習活動への理解を深めるため、大阪府内の識字学級や日本語教室で“にほんご”を学習している仲間たちを紹介したものです。

(2) 「多文化共生の地域（まち）づくり ～共に地域で暮らす“仲間”として、災害時にできること～」

参考資料 2

日時：平成 30 年 1 月 27 日（土） 午後 2 時～4 時

会場：地域活性化支援センター 大研修室

講師：土井佳彦氏（NPO 法人多文化共生リソースセンター東海 代表理事）

・みんなが住みやすい社会を構築していくためには、地域に暮らす一人ひとりがどのようなことを考え、実践し、伝えていけばいいのかといったことについて、とりわけ“災害時の対応”を中心に学習し、『多文化共生の地域（まち）』をつくるための第一歩となるべく企画実施しました。（一般財団法人自治体国際化協会（CLAIR）の地域国際化推進アドバイザー推進事業として実施）

(3) 社会教育人権啓発事業「識字・日本語教室の役割を考える ～大阪市「よみかき茶屋」の事例から～」

参考資料 3

日時：平成 30 年 2 月 25 日（日） 午後 2 時～4 時

会場：枚方市市民会館 第 3・4 集会室

講師：岩槻知也氏（京都女子大学発達教育学部教育学科 教授）

・外国人住民等の増加により、今後ますます需要の高まる日本語教室。一方では、“外国人の識字”といった問題や、何らかの事情により、学習との関わりの途切れた若年層の学びなおしの支援といった、従来の識字学級とはまた違った役割も求められるようになっていきます。こうした、これからの識字・日本語教室に求められる役割や、地域の日本語教室の課題などについて、地域のみinnで考えていく講座です。

(4) 枚方市日本語・多文化共生教室『よみかき』 指導員養成講座

参考資料 4

日時：平成 30 年 2 月 16 日（金）～3 月 21 日（水） 期間内 7 日間 全 13 日

会場：生涯学習情報プラザ 学習ルーム

講師：山野上隆史氏（公益財団法人 とよなか国際交流協会 事務局長）

榎井 縁氏（大阪大学未来戦略機構第 5 部門

未来共生イノベーター博士課程プログラム 特任准教授）

岩槻知也氏（京都女子大学発達教育学部教育学科 教授）※オープン講座

蓑田裕美子氏（四條畷市にほんご教室コーディネーター）

松藤昌代氏（北河内エリア・システムコーディネーター）

新矢麻紀子氏（大阪産業大学国際学部 教授）

北村良行氏（四條畷市 みんなきてや学級 講師）

・「枚方市日本語・多文化共生教室『よみかき』」の指導員については、本市が主催する「指導員養成講座」を受講した人に依頼するという方式を採用しています。今年度、7年ぶりに「指導員養成講座」を実施することとなりました。その理由として、

・高齢化や、さまざまな事情で教室を離れる指導員が増加し、現在従事している指導員の負担が大きくなってきたこと。

・各教室の活性化を促し、新しい考え方や指導方法を取り入れることにより、学習者の利便性の向上や、教室の円滑な運営を図るため。

これによって、指導員の負担の軽減や、新たな人材や交流が行われることで、教室の更なる活性化に繋がるものと期待しています。

3. 今後の「枚方市日本語・多文化共生教室『よみかき』」について

参考資料5

本市の「よみかき」は、1982年の楠葉公民館（現・楠葉生涯学習市民センター）での開設を皮切りに、その後の公民館開館に合わせて順次開設され、現在6か所の生涯学習市民センターにて実施しています。開設当初は、公民館事業の3本の柱の一つとして位置付けられ、「市民が読み書きに困っているということは、その人の基本的人権が守られていない」という考えのもと、現在まで積極的に推進してきました。

その後の社会状況の変化等に伴い、現在は補助執行事業として、産業文化部文化生涯学習室が実施しています。

平成28年度より、生涯学習市民センターのうち、一部施設が指定管理者による運営施設となり、それに伴い、さだ教室並びにまきの教室が、指定管理者の運営により実施されることとなりました。

更に平成30年度より、生涯学習市民センター及び図書館の複合6施設の指定管理者制度の導入に伴い、「枚方市日本語・多文化共生教室『よみかき』」についても、サンプラザ教室を除く5教室がその対象となりました。

このことに伴い、今後は、社会教育課が中心となり、「枚方市日本語・多文化共生教室『よみかき』」の開催・運営を担っていくこととなりますが、昨今の社会情勢の変化に対応する識字・日本語教室を目指すためには、教育委員会だけでなく、他部局との連携を更に強化した体制作りを推進することが必要であると考えます。

これからの「枚方市日本語・多文化共生教室『よみかき』」は、戦争や貧困・差別など、さまざまな事情により学習することができなかつた方や、学習の機会を奪われた方々、結婚や仕事により来日し、地域で生活する外国人住民の方々などの“学び”の保障といった従来からの役割に加え、ひきこもりや不登校など、何らかの事情により、学習との関わりが途切れてしまった若年層の方々への“学び直し”の支援や、日本語がわからないことで、災害時に適切な情報を受け取りにくい地域住民の方々への拠り所としての機能などについても、積極的に受け入れていくことが必要であると考えます。